

# 2017年3月期 決算説明会

2017年 6月 20日

 日本山村硝子株式会社

# 目次

---

- I 2017年3月期 連結業績概要
- II 2014年度～2016年度 中期経営計画レビュー
- III 2017年度～2019年度 新中期経営計画
- IV トピックス

# 目次

---

## I 2017年3月期 連結業績概要

## II 2014年度～2016年度 中期経営計画レビュー

## III 2017年度～2019年度 新中期経営計画

## IV トピックス

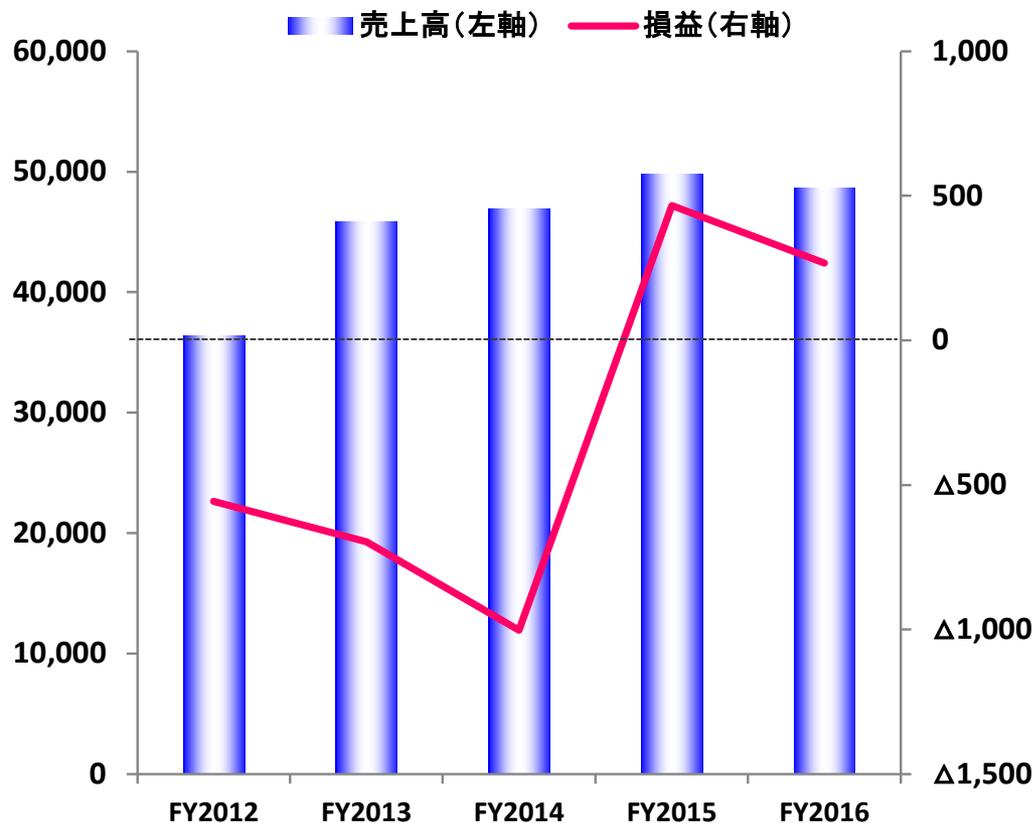
# 連結決算ハイライト

百万円	2015年度	2016年度	増減額	増減率
売上高	70,456	<b>68,772</b>	△1,684	△2.4%
売上総利益	13,268	<b>13,683</b>	+415	+3.1%
営業利益	1,246	<b>1,433</b>	+187	+15.1%
経常利益	2,113	<b>1,880</b>	△233	△11.0%
親会社株主帰属 当期純利益	1,139	<b>1,416</b>	+277	+24.4%

- プラスチックセグメントは好調に推移し増収を達成したものの、為替の影響もあり、その他のセグメントでは減収となり、連結全体で減収
- 原燃料価格が低位で安定したことにより営業利益は増益を達成、海外における環境保護対策負担金の支払い等があり経常利益は減益となったが、投資有価証券売却益を計上し、当期純利益は増益となった

# ガラスびんセグメント

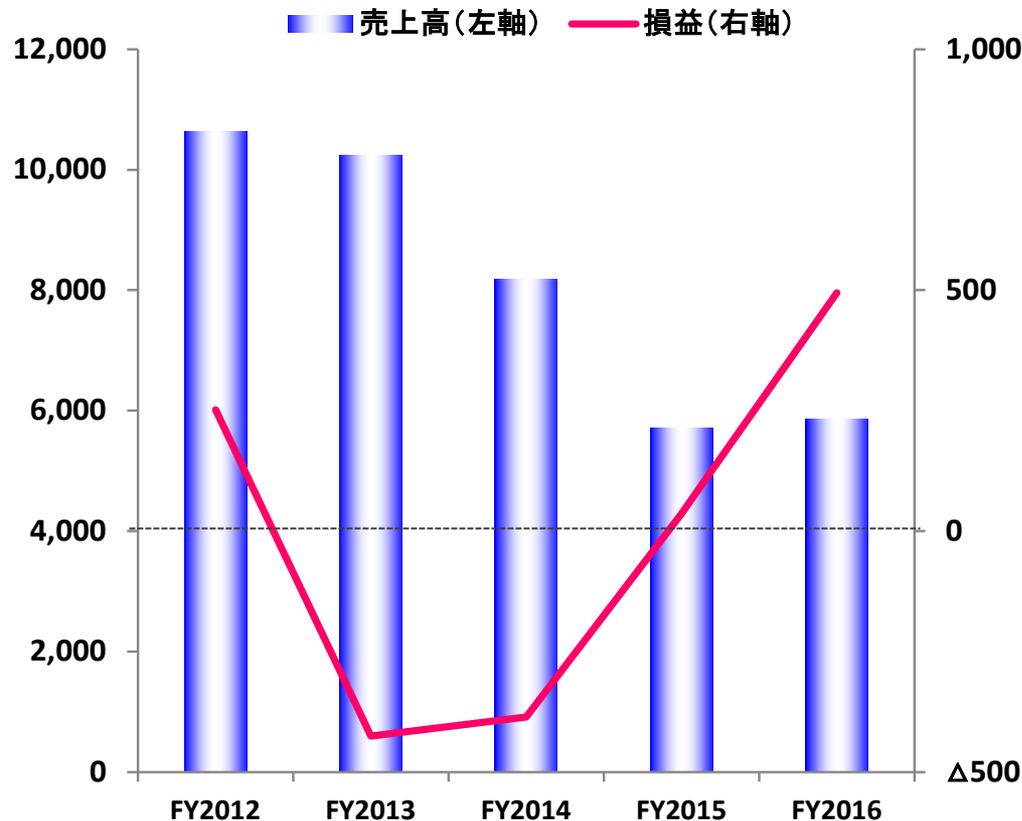
百万円	2015年度	2016年度	(増減額)	(増減率)
売上高	49,793	48,648	△1,145	△2.3%
セグメント損益	466	267	△199	△42.5%



- 為替の影響により、中国子会社であるYGQの売上高が減少した影響が大きく減収
- 設備投資による減価償却費増や炉修等により生産が減少したことにより減益

# プラスチックセグメント

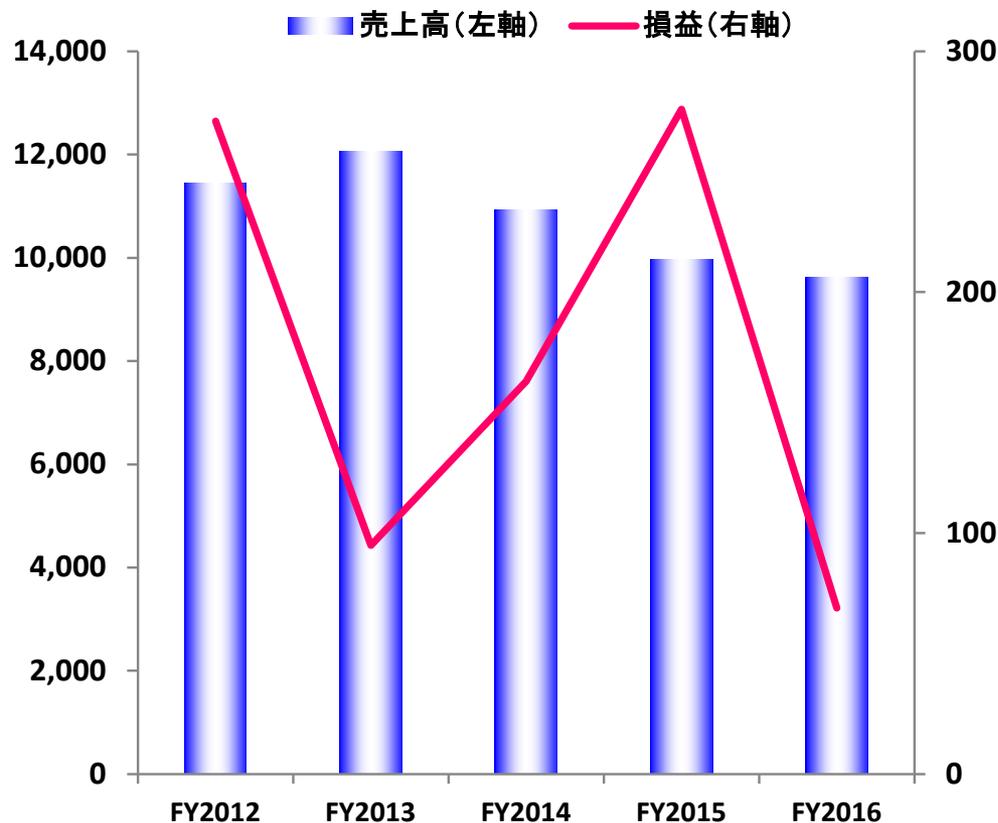
百万円	2015年度	2016年度	(増減額)	(増減率)
売上高	5,710	<b>5,856</b>	+146	+2.5%
セグメント損益	36	<b>495</b>	+459	+1,272.5%



- 新たに上市した大容量4.0Lペットボトルや飲料用キャップが好調に推移し、増収
- 製品の出荷が好調に推移したこと、原料価格が下落したことにより、大幅増益

# 物流セグメント

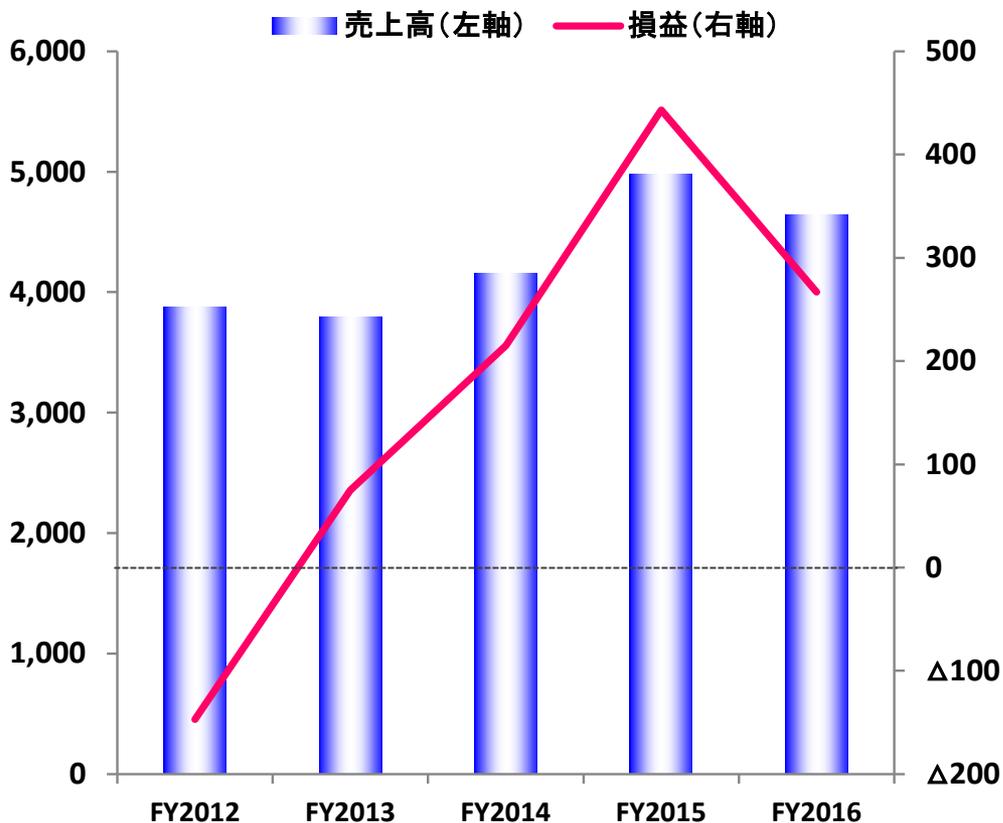
百万円	2015年度	2016年度	(増減額)	(増減率)
売上高	9,969	9,625	△344	△3.5%
セグメント損益	276	69	△207	△74.9%



- 取引先の物流再編による営業所閉鎖や不採算等の営業所撤退により減収
- 労働条件の改定による労務費増や新規営業所の立ち上げ費用により減益

# ニューガラスセグメント

百万円	2015年度	2016年度	(増減額)	(増減率)
売上高	4,982	4,642	△340	△6.8%
セグメント損益	443	267	△176	△39.6%



- 電子部品・自動車関連向け製品の出荷は堅調に推移したものの、光通信部品向けの海外販売が低迷した影響が大きく減収
- 費用削減に努めたものの、減収の影響が大きく減益

# 連結貸借対照表－資産の部

	2015年度末	2016年度末	(増減額)	
<b>流動資産</b>	<b>45,457</b>	<b>45,869</b>	<b>+412</b>	
現金及び預金	14,061	14,374	+313	
受取手形及び売掛金	19,739	19,959	+220	
たな卸資産	9,691	9,935	+244	
その他	2,035	1,687	△348	
貸倒引当金	△70	△85	△15	
<b>固定資産</b>	<b>61,855</b>	<b>61,743</b>	<b>△112</b>	
有形固定資産	30,345	31,651	<u>+1,306</u>	ガラスびんセグメント における設備更新
無形固定資産	3,651	3,263	△388	
投資その他の資産	27,858	26,828	△1,030	持分法損益による増、 円高による海外関連 会社評価減
投資有価証券	4,437	4,805	+368	
関係会社株式	21,795	20,493	<u>△1,302</u>	
その他	1,644	1,556	△88	
貸倒引当金	△19	△26	△7	
<b>資産合計</b>	<b>107,312</b>	<b>107,613</b>	<b>+301</b>	

# 連結貸借対照表－負債・純資産の部

	2015年度末	2016年度末	(増減額)
<b>流動負債</b>	<b>26,046</b>	<b>25,705</b>	<b>△341</b>
支払手形及び買掛金	9,159	7,962	△1,197
短期借入金	10,111	10,335	+224
その他	6,775	7,406	+631
<b>固定負債</b>	<b>21,319</b>	<b>23,504</b>	<b>+2,185</b>
長期借入金	12,222	15,032	+2,810
その他	9,096	8,472	△624
<b>負債合計</b>	<b>47,366</b>	<b>49,209</b>	<b>+1,843</b>
<b>株主資本</b>	<b>57,782</b>	<b>58,068</b>	<b>+286</b>
資本金	14,074	14,074	0
資本剰余金	17,300	16,697	△603
利益剰余金	27,637	28,528	+891
自己株式	△1,230	△1,232	△2
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>1,701</b>	<b>276</b>	<b>△1,425</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>462</b>	<b>58</b>	<b>△404</b>
<b>純資産合計</b>	<b>59,946</b>	<b>58,403</b>	<b>△1,543</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>107,312</b>	<b>107,613</b>	<b>+301</b>

社債・リース  
債務を含む有  
利子負債  
+2,904

円高による為替換算  
調整勘定減

# 目次

---

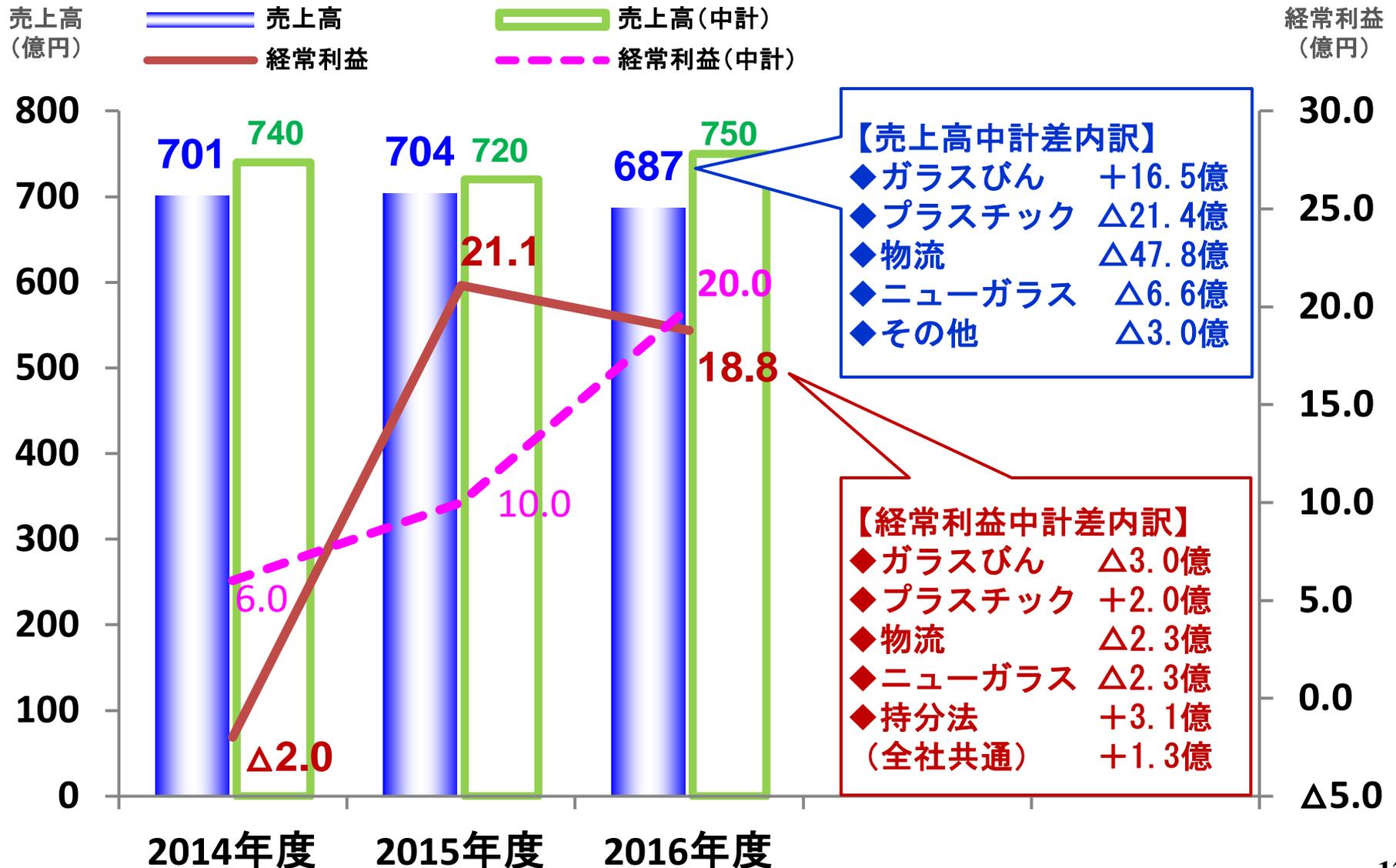
I 2017年3月期 連結業績概要

**II 2014年度～2016年度 中期経営計画レビュー**

III 2017年度～2019年度 新中期経営計画

IV トピックス

# 連結業績推移



# 海外売上高推移

「海外売上高」：日本からの輸出 及び 日本国外における売上

(億円)

150

100

50

0

■ 海外売上高(左軸)

— 海外売上高比率(右軸)

20.0%

15.0%

10.0%

5.0%

0.0%

【為替による影響】 △11億

倍増

最終年度は為替の影響もあり若干失速したものの、2013年度と比較すると、海外売上高・海外売上高比率ともにほぼ倍増

2013年度

2014年度

2015年度

2016年度

46

72

108

90

6.5%

10.3%

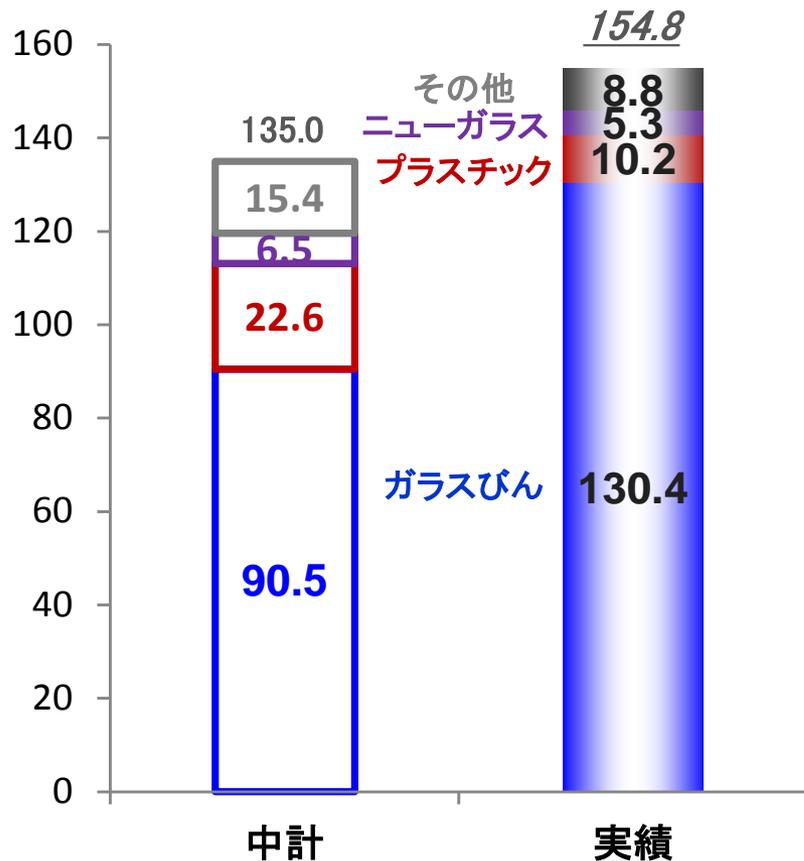
15.4%

13.2%

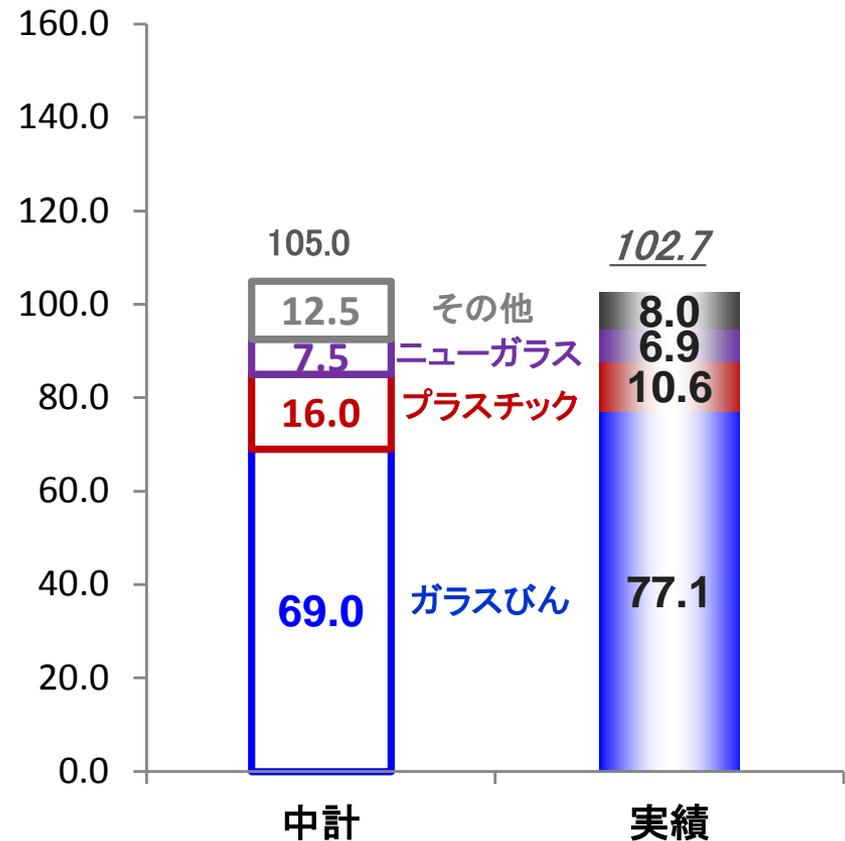
# 設備投資・減価償却費(2014年度～2016年度累計)

(億円)

## 設備投資



## 減価償却費



ガラスびんセグメントにおいて、国内は生産性向上を中心に、海外は規模拡大及び品質改善、環境対策のための投資を実施した結果、連結全体で設備投資は中計対比約20億円超過

# 2014年度～2016年度総括

売上高は中計未達ながら、成長戦略の一つと位置付けている海外売上高は着実に伸長

ニューガラス事業も一本調子ではないものの、売上高・損益ともに底堅く推移

2013年度～2014年度に実施した事業構造改革の成果で、安定的に損益を計上できる体質に改善

一方で、これまで投資してきた海外事業について、損益面でこれから改善の必要性あり

これまでの戦略は維持しつつ、課題である  
海外事業の損益改善に注力していく

# 目次

---

I 2017年3月期 連結業績概要

II 2014年度～2016年度 中期経営計画レビュー

**III 2017年度～2019年度 新中期経営計画**

IV トピックス

# ビジョン達成に向けたイメージ

FY2010～FY2013

FY2014～FY2016

FY2017～FY2019

世界のYAMAMURAへ (継承)

国内パッケージ

事業構造改革

収益力の強化

ニューガラス

事業領域拡大

収益への貢献

投下資本の回収

さらなる  
拡大へ

海外パッケージ

事業領域拡大

収益への貢献・  
投下資本の回収

さらなる  
拡大へ

- ◆ 成長に向けた収益基盤強化
- ◆ 成長のサイクル確立  
(投資⇒収益⇒回収⇒投資)

# 経営方針

## 全体戦略

### ➤ グループ総合力の深化

グループ間の連携を強化することにより、グループ内の経営資源を有効活用する

### ➤ 研究開発の推進

独創的な発想で新製品・新技術を創出する

## 事業戦略

### ➤ パッケージング事業の収益力強化

安定した収益を確保できる体質への転換を進め、成長市場におけるさらなる拡大のための経営基盤を確立する

### ➤ ニューガラス事業の拡大

ニューガラスカンパニーと山村フォトリソの強みと相乗効果により、事業規模を拡大する

# 経営指標

経営方針	経営指標	施策
<p>グループ総合力の深化</p>	<p>総資産経常利益率 ⇒FY2019目標 <u>2.5%</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 事業別にたな卸資産回転日数を管理</li> <li>➤ 事業別に設備投資の限度額設定、案件選別</li> </ul>
<p>パッケージング事業の収益力強化</p>	<p>売上高営業利益率※ ⇒FY2019目標 <u>(国内) 3%</u> <u>(海外) 5%</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 省人化技術や多品種少ロット技術の開発</li> <li>➤ デリバティブ等を活用した原燃料価格安定化</li> <li>➤ アメリカ市場を中心にさらなる輸出拡大</li> </ul>
<p>ニューガラス事業の拡大</p>	<p>売上高年平均成長率 ⇒<u>10% (目標)</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 拡大分野(エネルギー、情報通信、自動車向け)の海外市場も含めた販売強化</li> <li>➤ 戦略分野(半導体、光学ガラス向け)製品の開発強化</li> </ul>

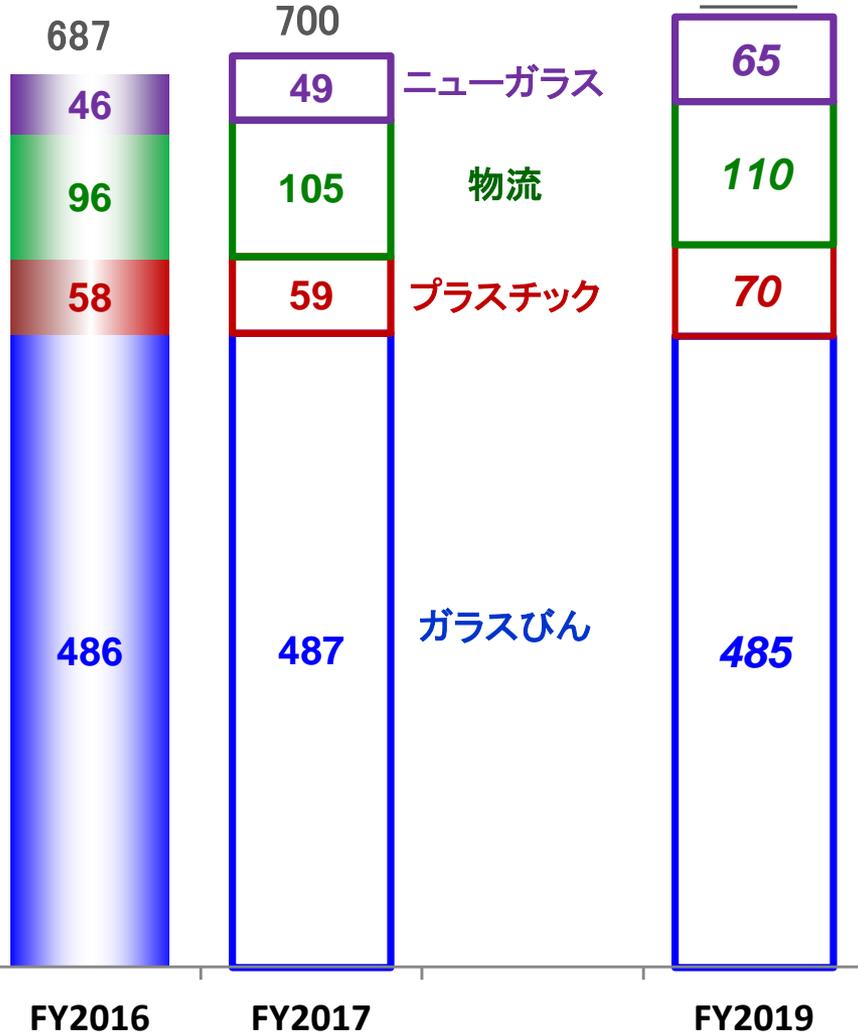
# セグメント別売上高、損益

## 連結売上高

(予想)

(目標)

730



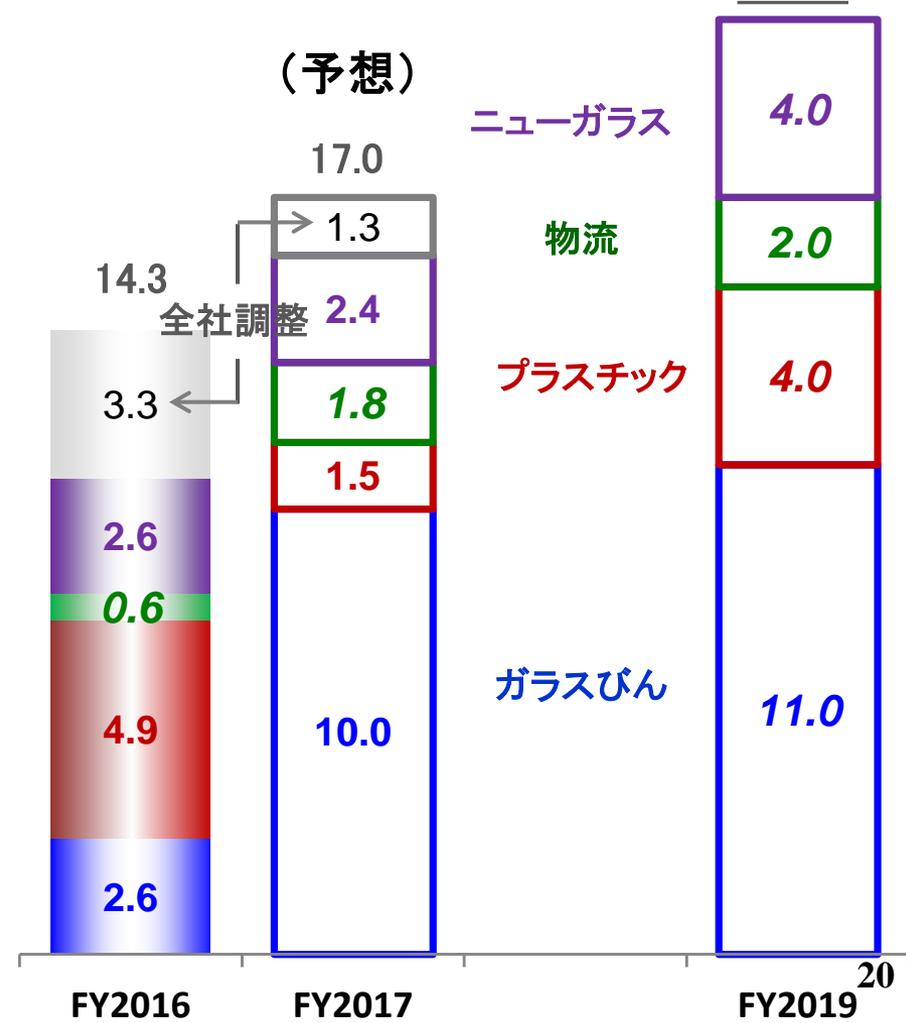
## 連結営業利益

(億円)

(予想)

(目標)

21.0

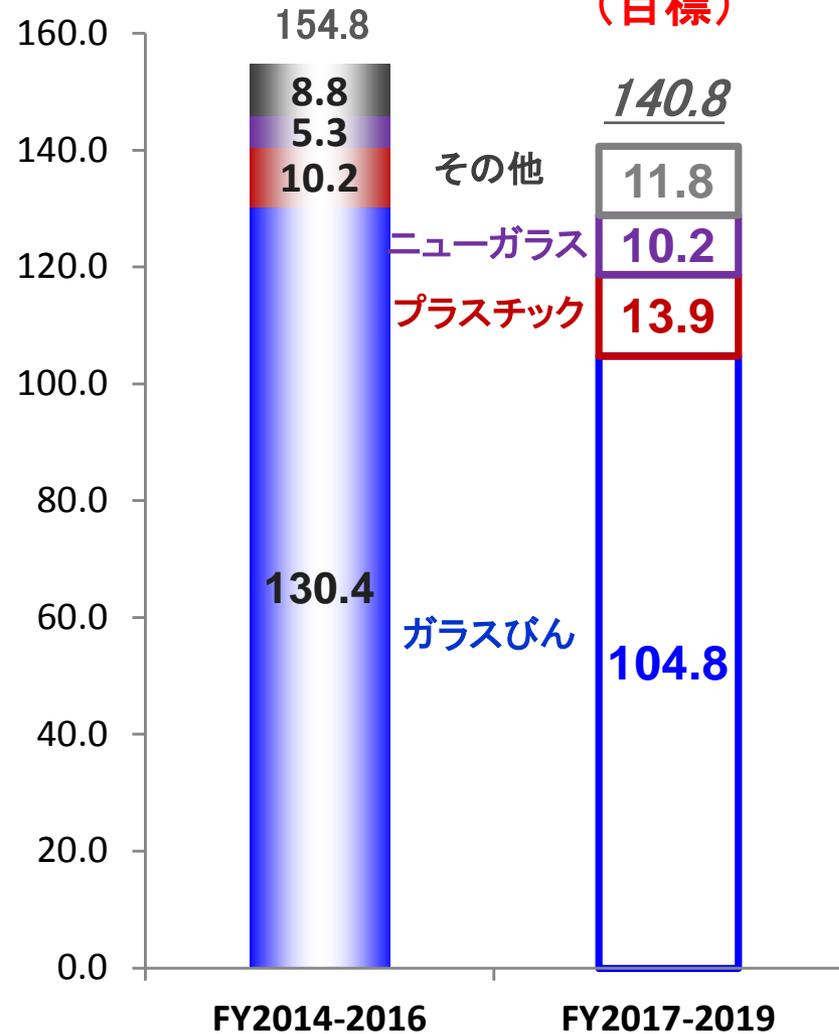


# セグメント別設備投資、減価償却費

(億円)

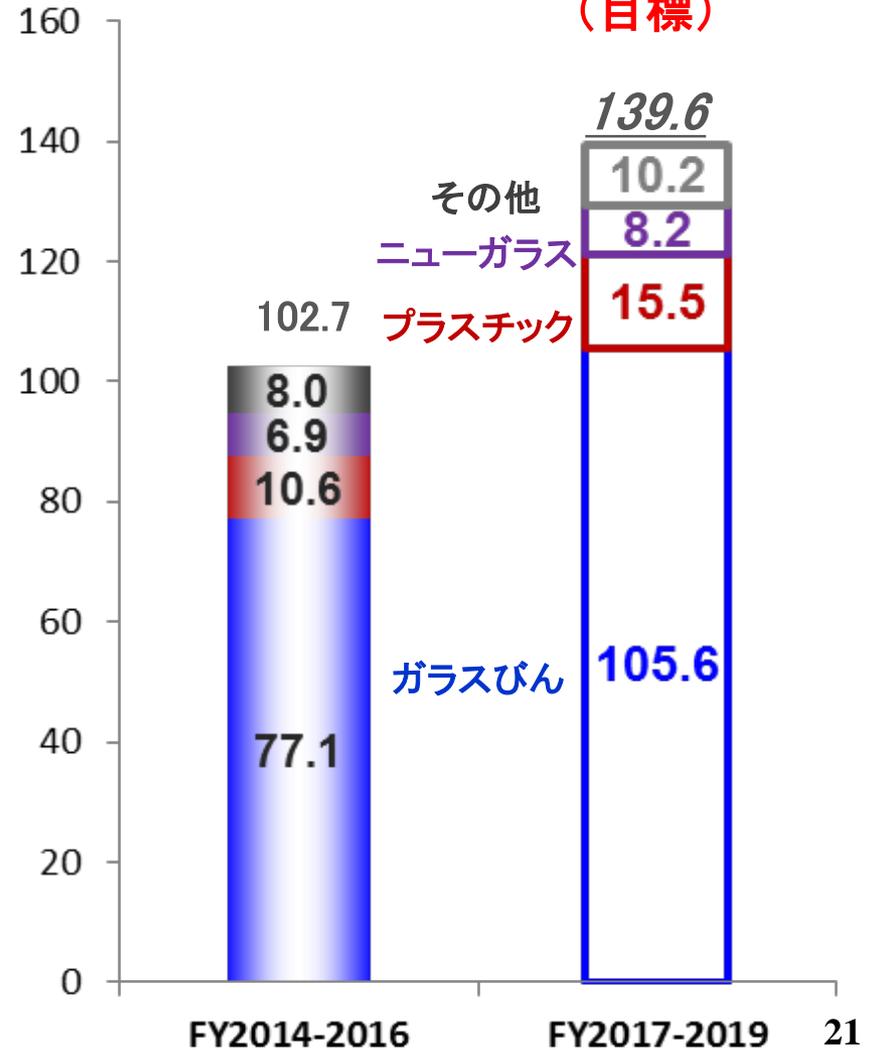
## 設備投資(3カ年累計)

(目標)

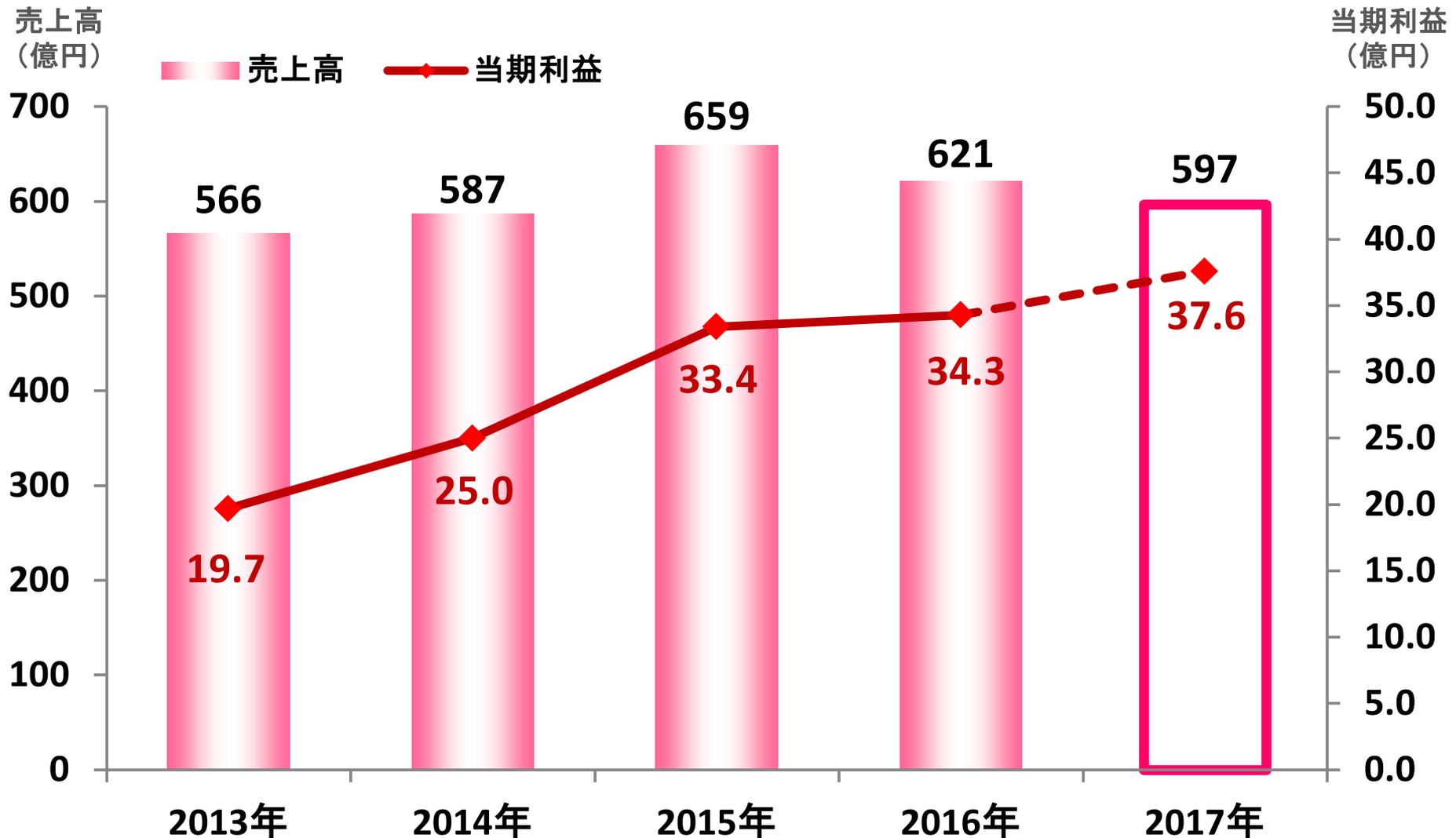


## 減価償却費(3カ年累計)

(目標)



# (ご参考) 海外関係会社※業績推移



※海外関係会社 : 海外非連結子会社 及び 海外関連会社

# 目次

---

I 2017年3月期 連結業績概要

II 2014年度～2016年度 中期経営計画レビュー

III 2017年度～2019年度 新中期経営計画

**IV トピックス**

# 監査等委員会設置会社への移行

## 《移行の目的》

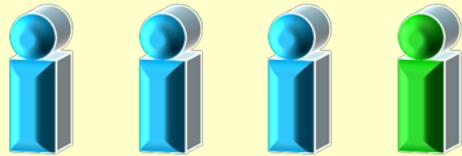
- ◆ 取締役会の監督機能強化
- ◆ 業務執行取締役への権限委譲により、取締役会での中長期的な企業価値向上のための議論のさらなる充実

## 当社のガバナンス体制の変遷

- 1983年 社外監査役選任
- 1999年 執行役員制度導入
- 2000年 社内カンパニー制導入
- 2007年 社外取締役選任
- 2017年 監査等委員会設置会社移行(予定)

### 【現体制】

#### 取締役会



取締役3名＋社外取締役1名

#### 監査役会

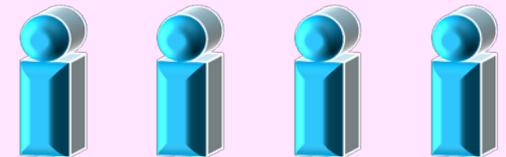


監査役1名＋社外監査役2名

株主総会での  
ご承認後

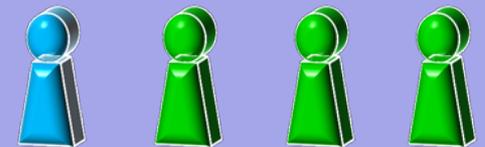
### 【新体制】

#### 取締役会



業務執行取締役4名

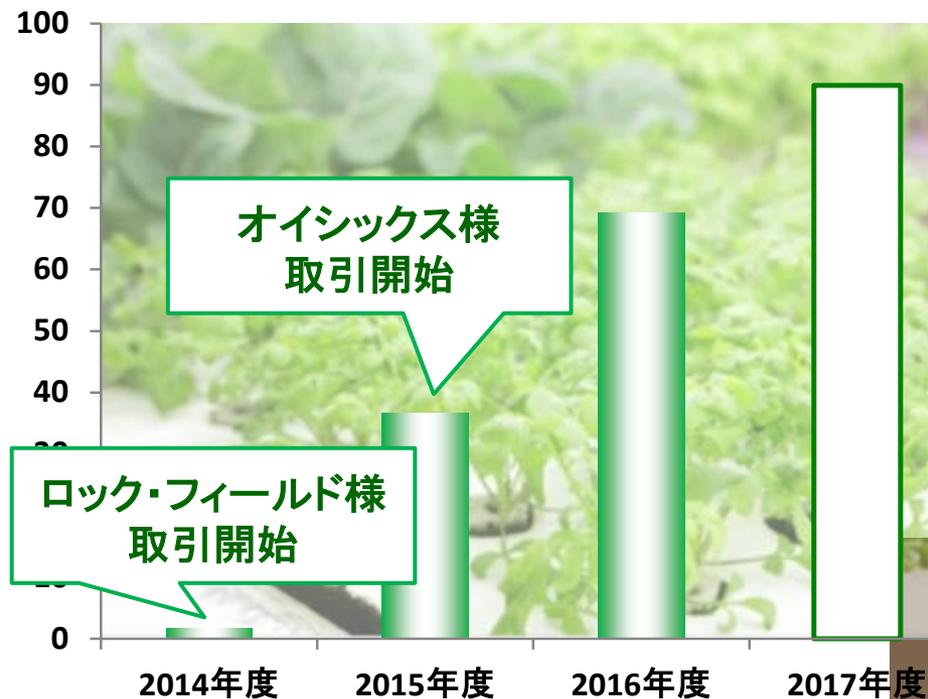
#### 監査等委員会



取締役1名＋社外取締役3名

# 植物工場事業

(百万円)



- ◆ 販売金額は順調に伸長
- ◆ 引き続き収益力強化に努めるとともに、「機能性食品表示」制度に沿った“機能性野菜”の開発等に注力

ノーカー  
Oisix 農家・オブザイヤー  
2016-2017  
“かがやケール”  
銀賞受賞



# Heart & Technology

 日本山村硝子株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が本資料発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づいており、当社としてその実現を保証するものではなく、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。